

小規模校・大規模校の特性

1. 小規模校(学級数:6~11 学級)のメリット、デメリット

	小規模校のメリット	小規模校のデメリット
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒間のコミュニケーションが取りやすく、相互理解につながり、学校全体で助け合う気持ちが育つなど人間関係が深まりやすい。 ○学年を越えた活動により、若年者をいたわり、年長者を尊敬する関係が生まれる。 ○生徒一人ひとりに対して、心の通う生徒指導や健康状態に配慮することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○仲間からの刺激が少なく、集団の中で切磋琢磨や競い合いの気持ち、また覇気やたくましが育ちにくい。 ○交友関係が少人数に限られるため、交友関係が固定化しやすい。 ○人間関係や交友関係に序列が生まれ、生徒間で互いの評価を固定する傾向がある。 ○様々な意見の交流が少なくなるなど多様な価値観が育ちにくい。
教育面	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員が一人ひとりを把握し、個性や特性に応じたきめ細やかな学習指導ができる。 ○小回りが利くため、他校との交流等、機動性に富んだ教育活動ができる。 ○学校行事や生徒会活動などで一人ひとりの活動の場が増え、参加意識や一体感が芽生え、責任感が育つ。 ○授業での発表の機会が多い。 ○教材教具の割当が多く、施設整備を余裕を持って活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○クラス替えができず、多様な意見や発想、創意工夫が生まれにくい。 ○行事や部活動の種類は限定され、個性や特性を伸ばすチャンスに欠ける。 ○音楽や体育活動など、集団で行う教科の学習が制約されることがある。 ○学校図書や教材教具の種類が少ない。 ○グループ間の発表を聞いて比較する活動が制約されることがある。 ○学校行事等における役割が固定化しやすい。
組織運営面	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員間の連携が密になり、意思疎通や協力体制が図りやすい。 ○学校指導方針等の共通理解が図りやすい。 ○地域や保護者の支援を頼む場面も増えるため、地域ぐるみの教育が展開できる。 ○教職員と保護者との人間関係が密接になり、協力が得やすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員が少ないため、運動会など学校行事の円滑な運営、また、緊急時における対応が難しい。 ○全教科に免許を有する職員を配置することが難しくなる。 ○教職員に余裕がなく、研修、出張等が制限される。 ○学年の担任や教科担任が1人であると、学年としての取り組みや教材の協議ができない。 ○地域や保護者に支援を頼む場面が増え、地域や保護者の負担が大きくなる。

2. 大規模校(学級数:25～30 学級)のメリット・デメリット

	大規模校のメリット	大規模校のデメリット
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ○集団の中で仲間から刺激を受け、認め合い、協力し、高め合うことで成長できる。 ○教職員や生徒から多くの情報が得られ、多様な価値観が育つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学年内、他学年間の交流や理解が不十分となりやすく、全校的な人間関係や信頼関係が希薄になる恐れがある。 ○生徒一人ひとりに目が届きにくくなり、生徒指導や健康状態の把握が難しくなる。
教育面	<ul style="list-style-type: none"> ○クラス替え等により交流範囲が広がり、新たな集団において人間関係が生まれ社会性が育まれる。 ○少人数指導やチームティーチングなど個に応じた指導が実施しやすい。 ○教職員が確保され、生徒の多様な興味や関心に応えた部活動の選択肢が広がる。 ○学校行事や学習活動で集団の力が発揮され、学校が活性化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○集団が大きくなるため、学校行事や生徒会活動など一人ひとりが活躍する機会が少なくなる。 ○教職員が生徒一人ひとりを理解したり、全体を把握したりすることが難しい。 ○集団が大きくなり、学校行事等において練習時間や練習場所の確保が難しくなる。 ○校外学習や修学旅行など、学年集団としての動きに時間がかかる。
組織運営面	<ul style="list-style-type: none"> ○一定数の教職員が確保され、バランスのとれた教職員の配置が可能となる。 ○教職員一人当たりの公務分掌が軽減し、指導体制や教育活動が充実する。 ○各学年に複数の教員が配置され、学年としての取り組みや教材の協議ができる。 ○PTA 活動などにおいて、豊かな活動を支える体制や予算編成ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員相互の連絡調整や連携が不十分となりやすく、学校内の教育目標や活動の一貫性に欠ける可能性がある。 ○学級数が多くなると、各学級の学習進度の調整、指導方法の徹底が難しくなる。 ○学校行事等において、全学年の生徒の参加が困難な場合が発生する。

出典：「丸亀市立学校の適正配置等について」